

27年6月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年6月1日～ 27年6月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		27/6月	7月	8月
伐採動向	スギ	△ 43.8	△ 12.5	△ 6.3
	ヒノキ	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 62.5	△ 62.5
	エゾ・トド	16.7	△ 33.3	△ 33.3
出荷・販売動向	スギ	△ 35.7	△ 21.4	△ 14.3
	ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 25.0	△ 37.5	△ 62.5
	エゾ・トド	0.0	△ 16.7	△ 33.3
手持ち立木在庫動向	スギ	△ 35.7	△ 28.6	△ 14.3
	ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 62.5	△ 75.0	△ 75.0
	エゾ・トド	△ 16.7	△ 50.0	△ 50.0

・スギ、ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドの伐採動向は、エゾ・トドが6月に増加するのを除いて全ての樹種で3ヵ月連続して減少、中でもカラマツの減少幅が大きい。

・出荷・販売動向は、エゾ・トドの6月の横ばいを除いて全ての樹種で3ヵ月連続して減少。

・手持ち立木在庫は、全樹種で3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・当月のトド間伐は天候に恵まれ増加、翌月から横這いの模様、若しくは国有林の素材生産請負事業の現場で作業見込み。
- ・スギ動き鈍い。カラマツは引合いが依然としてある。
- ・国有林伐採請負に入る。
- ・生産作業開始。
- ・間伐区と主伐区を同時進行。

(出材・販売動向)

- ・トドマツの出材・販売は運材トラックの減少で素材需要があっても販売できない場面もある。しかし、需要はあるので横ばいで推移。
- ・スギは依然として弱含み。カラマツはないもの高で競争激しい。
- ・梅雨で出材減少。
- ・梅雨入りで搬出が困難。

(手持ち立木在庫)

- ・トドマツの手持ち立木在庫は、立木公売で取得した伐区を伐っているものでやや減少、これから良い立木物件あれば適宜応札する。
- ・広葉樹ナラを中心に売れている。
- ・秋になる前に手持ち立木を5物件増加する見込み。